

第13回 千葉県地域連携の会 開催要項

いつだってわたしらしく～全世代へのサポートを地域で考える～

- 1 目的 医療、介護、福祉、行政等の関係者の皆様と、地域の抱える課題や必要な対策を議論し、より望ましい医療提供体制の構築を目指します。
- 2 開催日 2019年8月1日(木) 午後1時から午後8時まで
- 3 会場 千葉大学医学部附属病院 外来診療棟3階(千葉市中央区亥鼻1-8-1)
(※各分科会等の会場については、決定次第、ホームページにて御案内します。)
- 4 主催 千葉大学医学部附属病院
- 5 参加 医療・介護・福祉・行政等関係者、当院教職員
- 6 参加費 無料
- 7 申込み 以下のホームページより申込フォームに御記入いただくか、ちらしの裏面をFAXいただき、お申込みください。
- 8 申込期限 2019年7月22日(月)
※分科会Dは定員40名となります。先着順ですので、お早めにお申し込みください。
※「情報交換会での所属紹介」及び「配布資料での所属紹介」の申込期限は、
2019年7月16日(火)ですので、お間違いの無いようご注意ください。

ホームページアドレス <https://www.ho.chiba-u.ac.jp/event/index.html>

(スマートフォンからお申込み可能です。)



8 プログラム

12:00～ **受付開始** 御来場の際には、外来診療棟3階廊下に設置している“連携の会受付”にて、受付をお願いいたします。

12:30～ 病院内見学ツアー

当院内の主要な施設を御見学いただきます(所要時間約30分)。
見学場所：患者支援センター、ベッドセンター、通院治療室 など
※見学コースは昨年度と同じになります。

【定員80名】

13:00～15:15 第1部 開会・全体会

開会式	主催者挨拶 来賓挨拶
全体会 ACP-エンドオブライフ の意思決定支援	[講演者] 会田 薫子 先生 (東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣講座 特任教授) 本年度の会のテーマは、「いつだってわたしらしく」とさせていただき、患者さん自身の意思を尊重した医療・ケアにスポットを当てました。当院の臨床現場レベルにおいて、患者さん本人の意思を尊重するための取り組みがますます重要になってきています。QOLを重視し、患者さんに満足していただくためには、本人の価値観や信念等を理解するためのコミュニケーションが欠かせません。 全体会では、会田薫子先生をお招きし、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について御講演いただきます。地域の医療・ケアがチームになって患者の意思決定を支援するプロセスについて考える場となれば幸いです。

15:30~17:00 第2部 分科会1

分科会A 人工呼吸器の患者	当院は提携医療機関制度を始めさせていただき、後方連携の中の一つの問題として、人工呼吸器を用いた患者を、地域をあげて支えていくことが必要となっています。 本分科会では、関係者の方々にそれぞれの立場からお話いただき、人工呼吸器の患者を地域で診ていくために必要な取組みについて、地域の皆様と検討します。
分科会B 地域医療連携推進法人とは何か？	地域医療連携推進法人は、「地域において良質かつ適切な医療を効率的に提供するため、病院等に係る業務の連携を推進するための方針を定め、医療連携推進業務を行う一般社団法人」のことで、都道府県知事が認定する制度です。 医療機関相互間の機能の分担及び業務の連携を推進する取り組みの一つとして、法人設立について制度と実務に精通している法律家からご説明いただきます。

17:15~18:15 情報交換会

軽食と飲み物を御用意させていただいておりますので、参加者同士の情報交換の場としてご活用いただき、連携促進の一助としていただきたいと思います。

また、参加者様によるご所属（医療機関、事業所など）の紹介の時間を設けております（各所属3分程度の発表）。ご所属紹介を希望される場合は、下記の申込先まで別途ご連絡ください。

より良い役割分担と連携を進めるためにも、ご所属の特徴や現在地域で担われている役割、今後の構想など、地域の皆様の状況を教えていただき、参加者の方々と共有する場にしたいと思います。

【ご所属紹介の申込先】※申込期限：7月16日（火）

chiiki-renkei@chiba-u.jp まで、ご所属名と担当者名を添えて御連絡ください。

（※お申込多数となった場合は、締切日の前に受付を終了させていただく可能性がございます。）
※先着順となりますので、お早めにお申し込みください。

18:30~20:00 第3部 分科会2

分科会C 移行期医療支援	医療の進歩に伴い、小児期発症の慢性疾患患者が成人年齢にまで成長できるようになったことによって、成人移行した患者を小児科医が診察することの弊害が増加してきました。 これに対応するため、小児科学会より「小児期発症疾患を有する患者の移行期医療に関する提言」が発表され、厚生労働省はモデル事業を開始し、各県に通達を発出したところです。 本分科会では、移行期医療の概念から、本県の体制等についてお話させていただき、今後の移行期医療支援についてのイメージを共有したいと思います。
分科会D ACP～全世代へのサポートを事例を通して考える～ 【定員40名】	皆誰も疾病を抱える可能性があり、その時に向き合う生活課題があります。 全体テーマ「いつだってわたしらしく ～全世代へのサポートを地域で考える～」に沿って、その方らしくその地域で生活していく為に、我々が専門職としてどう連携を図り、サポートしていけると良いか。最近話題のトピックス ①がんと就労支援 ②心不全 ③AYA世代 を盛り込んだ事例から、アドバンス・ケア・プランニングの概念をふまえ、グループワーク形式で検討していきます。 各トピックスのミニレクチャーもご用意しています。